

～ ヒメボタルの森の力を感じる、夏～

相牛山の四季を歩く会 #189



2025.5.11

この花を観よう



エゴノキ



ネジキ 一番花

Styrax japonica

別名: チシャノキ, ロクロギ 落葉亜高木 冬芽は裸芽、必ず副芽あり。新枝の先に白色の花が1~6個垂れ下がって付く。花柄2~3cm、花冠は ϕ 2.5cm、5深裂、外面に星状毛。雄しべ10個、花冠より短い。雌しべは雄しべより長い。株立ち多い、樹皮: 暗紫褐色~炭黒で滑らか。果実: 蒴果、果皮にエゴサポニン(=有毒)を含む。熟すと褐色の種子が1個出る。←ヤマガラ(山雀)の大好物。関連: エゴノネコアシ、エゴツルクビオトシブミ。ろくろ細工。



スイカズラ

別名: ニンドウ(忍冬)、キンギンカ(金銀花) つる性、枝は中空。対生。夜に芳香←夜行性の蛾を呼ぶ。果実酒: 滋養強壮

匂い、味、触った感じも確かめよう♡

順路	標準和名	漢字表記	科	memo
1	トベラ	扉	トベラ	匂い、♀♂別株
2	シャリンバイ	車輪梅	バラ	匂い、タンニン
3	ハリエンジュ	針槐	マメ	ニセアカシヤ、蜜源
4	イボタノキ	水蠟樹	モクセイ	イボタノキ
5	ツクバネウツギ	衝羽根空木	スイカスラ	対生、双子花
6	タカノツメ	鷹の爪	ウコギ	花序
7	エゴノキ	えごの木	エゴノキ	SnowBell
8	テイカカズラ	定家蔓	キョウチクトウ	ヒメボタル指標花
9	モチツツジ	鵝躑躅	ツツジ	触感
10	スイカズラ	吸い蔓	スイカスラ	対生、双子花、味
11	ノイバラ	野茨	バラ	匂い、昆虫
12	ヤマコウバシ	山香ばし	クスノキ	感触、味
13	ナツハゼ	夏櫨	ツツジ	触感
14	ガマズミ	莢蒾	レンブクツウ	匂い、1か月の差
15	アオハダ	青肌	モチノキ	♀♂別株
16	ネジキ	捻木	ツツジ	ヒメボタル指標花
17	ヤママユ	山繭	ヤママユガ	幼虫
18	カナメモチ	要鵲	バラ	常緑高木
19	ソヨゴ	冬青	モチノキ	♀♂別株、蜜源
20	オトシブミ	落し文	オトシブミ	揺籃
21	ヤマウルシ	山漆	ウルシ	カブレ注意: ♀♂別株
22	ヤマハゼ	山櫨	ウルシ	カブレ注意: ♀♂別株

キビタキを聞こう

キビタキ(黄鶯)

スズメ目ヒタキ科

夏鳥 スズメ大

囀り: ピッコロロ、ピョイチ、

ポッパリ 繊細高音

地鳴き: ピッピッ、ティリリリ.....

鳴き真似、時にヒヨドリ(鶉)にも似る

♂=眉斑: 黄、長い 喉: オレンジ 下面: 黄

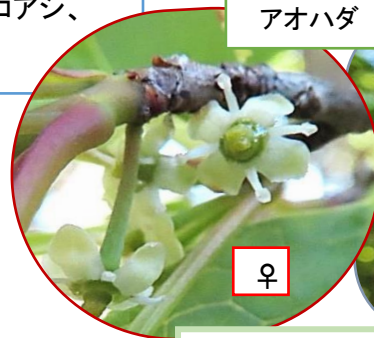
背: 黒+白斑 ♀=上: オリーブ 下: 汚白

平地~山地おもに落葉広葉樹林

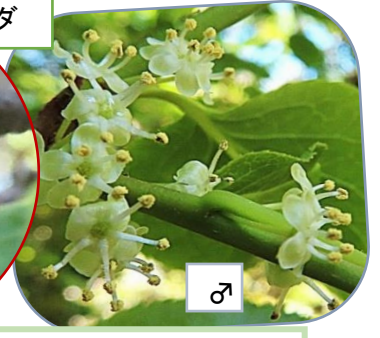
餌: 昆虫←フライングキャッチ



アオハダ



♀



♂

雌雄異株のモチノキ(鵝の木)科

雌花、雄花の特徴を覚えよう



♀



♂

ソヨゴ

比べて実感: 葉質、触感

① ナツハゼ、サワフタギ、クロミノニシゴリ、ヤマコウバシ

② ガマズミ、コバノガマズミ、ミヤマガマズミ



花のガマズミ

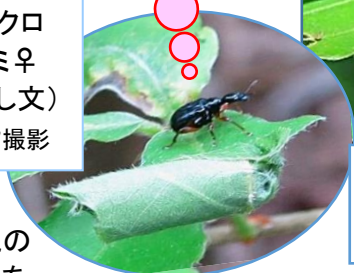


花期が1か月早い
ミヤマガマズミは
すでに果実

この虫を探そう

今日は母の日
「お母さんってスゴイ」と
あらためて感謝する日。

産卵後と思わ
れるヒメクロ
オトシブミ♀
(姫黒落し文)
2016.4.27撮影



オトシブミ
の揺籃

揺籃＝ゆりかご＝
赤ちゃんが育つ所

オトシブミの
仲間は葉を
嚙切って巻いて産卵し幼虫がその中で蛹に成長するものと、チョッキリのように葉や枝や実に産卵し幼虫が土の中で蛹になるものがある。相生山に生息するヒメクロオトシブミは産卵後も落さないで、名のゆわれの『落と文』にはならない。メスが葉を調べ、測り、産卵し、揺籃を完成させるまで1時間くらいかかる。揺籃1個に1個の卵。子どもは揺籃を食べて成長し、1か月くらいで羽化。ヒメクロオトシブミは両裁だが、エゴツルクビオトシブミは単裁で揺籃の形が違う。

ヤママユ(山
繭)の幼虫



幼虫は口から糸をはいて葉を綴り繭をつくり、その中で蛹になる。カイコガ(蚕蛾)を飼育する以前にはヤママユガのなかまの繭から糸を獲っていた。ブナ科のクヌギ(椋)はその餌のため、朝鮮半島から持ち込み植栽されたという説がある。ヤママユの糸は「天蚕」と呼び貴重なものとされる。「相生山の四季を歩く会」の仲間が昨年、ヤママユの繭から Cocooni habitus (通称: 山繭菌) を発見した。詳細: ブログ「相生山からのメッセージ」

ノイバラ(野茨)に
ハナムグリ(花潜)



花粉や蜜を集める昆虫、
葉を食べる幼虫。食草が
それぞれ決まっているの
で、植物から虫を見つけ
ることができる。逆に虫
から植物の同定も可能。



ナナフシモドキ(七節擬き)



ハリエンジュ(針槐)
にクマバチ(熊蜂)



サルトリイバラ(猿捕茨)を
食べる ルリタテハ(瑠璃
立羽)の幼虫



ヒサカキ(姫榊)を食べる
ホタルガ(蛍蛾)の幼虫

参考: 機に咲く花(山溪ハンディ図鑑), NeoPocket昆虫(小学館), PocketGuide野鳥(ヤマケイ) など

ことしもヒメボタルの生殖時期になりました。下記予定で調査・観察します。参加希望される方は事務局までご連絡ください。少雨決行。別ページ参照。
5/16(金), 17(土), 23(金), 24(土)
20:30~21:30, 22:00~23:00

6月第2日曜は8日 二十四節気は芒種
“入梅”は11日

～雨が降ったらキノコの季節
キノコ目になって歩こう～

連絡先(古川)

tell/fax: 052-821-6463

ケイタイ: 080-5124-6463

e-mail: viva_forest@yahoo.co.jp

https://lovelyearth.info/

検索: 相生山の四季を歩く会

観察順	標準和名	漢字表記	科名	樹形	花	観察点	冬芽	特記
1	コナラ	小櫨	ブナ	高木	同株/異花	芽吹き・花	鱗芽	
2	ハリエンジュ (ニセアカシア)	針槐	マメ	亜高木	同株/両性花	芽吹き	隠芽	
3	ミヤマガマズミ	深山莢蒾	レンプクソウ	低木	同株/両性花	花	鱗芽	匂い
4	アオキ	青木	ガリア	低木	別株	花		
5	エゴノキ	えごのき	エゴノキ	低木	同株/両性花	芽吹き	鱗芽/副芽	
6	アケビ	木通	アケビ	蔓	同株/異花	花		匂い
7	ヤマコウバシ	山香ばし	クスノキ	低木	別株	芽吹き・花	鱗芽	匂い、味
8	カマツカ	鎌柄	バラ	低木	同株/両性花	芽吹き・蕾	鱗芽	
9	アズキナシ	小豆梨	バラ	亜高木	同株/両性花	芽吹き・蕾	鱗芽	
10	ヤマザクラ	山桜	バラ	高木	同株/両性花	果実		
11	ヌルデ	白膠木	ウルシ	亜高木	別株	芽吹き	鱗芽/毛	
12	アカメガシワ	赤芽柏	トウダイグサ	亜高木	別株	芽吹き	裸芽	
13	ミツバアケビ	三つ葉木通	アケビ	蔓	同株/異花	花		匂い
14	フジ	藤	マメ	蔓	同株/両性花	芽吹き・蕾	鱗芽	
15	エノキ	榎	アサ	高木	同株/異花	花		
16	ハゼノキ	櫨の木	ウルシ	亜高木	別株	芽吹き	鱗芽	
17	ヤマハゼ	山櫨	ウルシ	亜高木	別株	芽吹き・蕾	裸芽/毛	
18	ヤマウルシ	山漆	ウルシ	亜高木	別株	芽吹き・蕾	裸芽/毛	
19	タカノツメ	鷹の爪	ウコギ	亜高木	別株	芽吹き	鱗芽	味
20	ヤマツツジ	山躑躅	ツツジ	低木	同株/両性花	花	鱗芽	半常緑
21	コバノミツバ ツツジ	小葉の三つ 葉躑躅	ツツジ	低木	同株/両性花	花	鱗芽	
22	ウスノキ	臼の木	ツツジ	低木	同株/両性花	花	鱗芽	
23	アベマキ	栂	ブナ	高木	同株/異花	芽吹き	鱗芽	
24	コバノガマズミ	小葉の莢蒾	レンプクソウ	低木	同株/両性花	花	鱗芽	匂い
25	ヤマハギ	山萩	マメ	低木	同株/両性花	芽吹き	鱗芽/副芽	
26	アオハダ	青肌	モチノキ	亜高木	別株	芽吹き	鱗芽	
27	ガマズミ	莢蒾	レンプクソウ	低木	同株/両性花	蕾	鱗芽	
28	シイノキ	椎の木	ブナ	高木	同株/異花	芽吹き	鱗芽	
29	ズミ	酢実	バラ	低木	同株/両性花	芽吹き・蕾	鱗芽	
30	ネジキ	捻木	ツツジ	低木	同株/両性花	芽吹き	鱗芽	
31	リョウブ	令法	リョウブ	低木	同株/両性花	芽吹き	鱗芽/裸芽	味

相生山のヒメボタル



目	科	種	学名
コウチュウ (甲虫)	ホタル (蛍)	ヒメボタル (姫蛍)	<i>Luciola parvula</i> (Kiesenwetter)

名古屋市redlist2020 準絶滅危惧種(NT)

ヒメボタルは 相生山緑地の
『象徴種＝flagship species』
その魅力によって その生育場所の
保存を 世間にアピールする
ことができる種。

写真家 加藤文雄氏 2014.5撮影
ご本人より提供 無断転載禁止

- ◆その一生 成虫・・・♀≒7mm(後ろ羽根退化して飛べない)♂≒9mm 羽化 1週間～10日間、発光により生殖相手を求め交尾、産卵後死滅。その寿命は雨や気温など天候の影響が大きい。人間からの圧力も。
「(相生山では)ミカンの花匂うころ発生し、栗の花が匂いだすと消滅する」と言われてきた。
卵・・・ $\phi=0.6\text{mm}$ 孵化するまで1ヵ月程度
幼虫・・・孵化直後は2.5mm程度 陸貝などを餌にし、順調に成長できれば翌年3月ごろに 蛹(サナギ)へ。
「成長不良な個体は更に1年、幼虫で過ごす」
- ◆その餌 成虫・・・水しか摂らない。
幼虫・・・肉食。陸貝の中に入りこみ、その身を食べるところが目撃されている。「幼虫の餌は陸貝だけではないのだろう。陸貝の数に比べて、ヒメボタルの個体数は多すぎる」(川瀬先生/愛知みずほ大)
- ◆なぜ相生山に？ 地質・・・堆積層(砂・礫・腐葉土など)の下に不透層(粘土質)があって、幼虫の食餌となる陸貝などの小さな生物が生育できる環境条件が整っている。
- ◆「沢筋を含む多様な地形を保ち土壌が乾燥しないように。豊かな植生を維持することが大切」(日野先生/名城大)
- ◆夜中が飛翔のピーク：「人間が夜を明るくしてしまったので、発光効率を求めて次第に遅くなっていったのではないかと。曇りの夜に飛ぶ数が少ないのは、雲が都会の光を反射して森のなかも明るくするからと思われる」(高岡立明/環境カウンセラー)

ヒメボタルとの出会い☆ちよつとうるさい注意事項			相生山の四季を歩く会 2017.5作成
1	すべります、つまずきます 「悪路」に注意 杖(ストック・雨傘)お勧め	* むき出しの道は丸いごろごろ石とザラザラ砂 * 数百万年の昔、この辺り一帯(＝名古屋東部丘陵)は 水底や水辺だったそうです。[東海湖、古木曾川]説	腐葉土、水を透す層、透さない地層。 ヒメボタル幼虫の餌になる陸貝などの小さな 動物が生息する条件。
2	路の中心を歩いてください	* もともとヒメボタルの生息域です。 人間は後からそこへ入ってきて、住んだり、耕したり。さらに 「観察・観賞・見物・撮影」しようとしています。	ヒメボタルの♀は後ろ羽根が退化して 飛ぶことができないそうです。 踏んでしまうことのないように。
3	灯りは禁止(その①) 森の中では無灯が原則 着衣に白っぽい目印を	* ヒメボタルの発光は、交尾相手を探す手段 * 成虫は水だけを摂り、1週間で死滅	人工の光は、自然のいのち破壊につながり かねない。 「蛍の恋路を邪魔しないで」
4	撮影者に要注意	場所によっては「自己中な」カメラマンもいたりします。	(とりあえずは)無視してください。 機材などにぶつかって転倒しないように。
5	出会えればラッキー！！	* 時期のピークはいつか、誰にもわかりません。 * 深夜になれば出現数は多くなるようです。	異常気象、経済活動など人為的要因。
6	灯りは禁止(その②)	夜の森歩き。いつもと違う体験を：	ワクワクしたり、どっきりしたり・・・